分　科　会	中(地理①)	郡　市　名	岡　崎
提　案　者	岡崎市立竜南中学校		佐　々　木　幸　美

研究題目

社会に参画していこうとする子どもの育成をめざし，仲間とかかわりながら問題の解決を図る社会科の授業

～１年生地理的分野「急速に進むミャンマーの幸せな発展とは」の実践を通して～

１　はじめに

岡崎市の社会科部は，研究テーマ「社会に参画していこうとする子どもの育成をめざし，仲間とかかわりながら問題の解決を図る社会科の授業」を受け，一昨年度から授業実践を行ってきた。昨年度の研究を通して得られた成果と課題を以下に示す。

〈実践単元〉―２年生　地理的分野「身近な地域の調査」～岩津中学区開発最前線～の実践を通して―
〈成果〉
・フィールドワークや聞き取り調査から将来の商店街の姿を自分たちの問題として捉えさせることができた。
・話し合いから生徒同士の意見交流やメリットデメリットを話し合うことにより，様々な立場の人の考えに迫り，多面的・多角的に物事をみることができた。
〈課題〉
・商店街を残したいという思いをもつことができたが，何を行動すべきか考えたり，自ら行動しようとしたりする姿が見られなかった。

これを受けて，本研究では子どもが持続可能な社会の実現に向け，仲間とのかかわりを通して，動き出そうとする姿の育成に重点を置きたいと考えた。

２　研究主題のとらえ

社会に参画していこうとする子ども…

「持続可能な社会」を実現するために，自ら進んで社会問題に関心をもち，問題点を考え多くの人と思いを共有し，協力したり問題を処理解決したりしながら行動していく子ども。

仲間とかかわりながら…

「仲間」とは，共に学び合う学級の子どもたちだけでなく，学びを通してかかわるすべての人のことを意味すると考える。「仲間とかかわる」とは，学習活動でかかわる様々な立場の人の考え方を知り，多面的に考え自分の意見を深めること。

問題の解決を図る…

身近な社会的事象から生まれた疑問を意見交換や話し合いを通して問題としてとらえ，追究活動を行い，整理していくことで，自分なりの解決策を見い出すこと。

３　めざす子ども像

①ミャンマーの人々の生活の様子を具体的な事実から多面的に捉えることができる子ども。
②ミャンマーに山積する課題に目を向け，より多くの人が幸せになれる社会(持続可能な社会)を作っていくためには，何が必要か考えを深め，自分のできることに取り組もうとする子ども。
③自分の思いや考えを率直に述べ合い，友達の考えのよさに共感したり，そのよさを自分の考えに取り入れたりして，より深まった考えをもつことができる子ども。

4　研究の仮説と手立て

以下の３つの研究仮説を立て，そのための手立てを次のように講じた。

【仮説Ⅰ】	課題を自分の問題としてとらえることができるようにすることで，子どもの問題意識を喚起することができ，切実感をもちながら意欲的に追究活動を行うことができるであろう。 **手立て①**　問題を身近にする。 **手立て②**　子どもの意識に沿った単元を構成する。
【仮説Ⅱ】	追究活動の場において，様々な見方・考え方に触れることにより，多面的に事象を捉えることができるようになり，持続可能な社会の担い手に求められる資質が育つであろう。 **手立て③**　個人追究の場を設定する。 **手立て④**　ゲストティーチャーを効果的に活用する。
【仮説Ⅲ】	同じ視点を有する生徒同士での追究活動や話し合い活動を通して，自分の考えに根拠と自信をもって学級全体の話し合いに参加し，事象に対する認識を深めることができるであろう。 **手立て⑤**　学習形態を工夫する。 **手立て⑥**　相互批正の場を工夫する。

5　指導目標

①　ミャンマーとＡＳＥＡＮ諸国の自然環境、産業、生活・文化、歴史的な背景などの特色について概観する中で、特に経済成長に関心をもち、自分たちで設定した学習テーマを意欲的に追究しようとしている。
（社会的事象への関心・意欲・態度）

②　ミャンマーの今後の経済発展について、日本やＡＳＥＡＮ諸国が経済発展してきた様子と比較しながら、多面的・多角的に考察し、よりよいミャンマーの発展に向けた課題について、自分なりの考えをもち、話し合い活動や学習のまとめの場面において、自分の考えを表現することができる。
（社会的な思考・判断・表現）

③　収集した資料から、ミャンマーや・日本・ＡＳＥＡＮ諸国の地域的特色について有用な情報を適切に選択して、それを基に、経済状況を読み取ったり、国家間の違いについて図表にまとめたりして自分の考えの根拠として活用することができる。（資料活用の技能）

④　ミャンマーの現状を把握した上で、経済発展の問題点、ＡＳＥＡＮとの今後の関係や日本とのつながりを理解することができる。（社会的事象についての知識・理解）

⑤　ミャンマーの持続可能な発展の実現のためには、経済発展と環境保全をバランスよく進めていくことが大切だと理解することができる。（ESD の視点）

6　指導計画

時数	学習課題	学習内容	手立て
1	ミャンマーの人は どんな人だろう	・ミャンマーからの大学生（大学生）との出会い ・ミャンマーの場所，国旗，食べ物，生活習慣など日本人と似ているところ違うところ	**手立て①** ミャンマーの大学生に出会わせ，ミャンマーに興味をもてるようにする。
2	ミャンマーってどんな国だろう ミャンマーはASEAN 諸国に追いつくことができるのか	・ＡＳＥＡＮ諸国との経済的な比較 ・単元の学習課題設定	**手立て②** 子どもの意識を基に単元の学習課題を設定する。
3	ミャンマーの概要について， ゲストティーチャーの話から 学ぼう	・松井幸彦先生の話。 ミャンマーに学校を建てたわけ。 ミャンマーの様子	**手立て④** ゲストティーチャーとして，松井幸彦氏を招く。
4・5	学習課題について，本やインターネットで個人追究をしよう	・個人追究 （本・インターネット・教師自作の資料の活用）	**手立て③** 子どもが追究の視点を明確にした上で個人追究の場を設定する。
6＋随時	松井先生に聞いて 個人追究を深めよう	・ゲストティーチャー松井氏への聞き取り ・ミャンマーで働く人への質問 （ＦＡＸやメールの活用）	**手立て④** ゲストティーチャーの松井氏から再度話を聞いたり，ミャンマーで働く日本人に紙面で質問をしたりする場を設定

			し，個人追究が深められるようにする。
7	「ミャンマーはＡＳＥＡＮ諸国に追いつくことができるのか」について話し合おう	・写真，聞き取り，グラフなどの資料に基づく話し合い ・立場と討論 「追いつけない」・「追いつく」	**手立て⑥** 自分の立場（追いつけない・追いつく）を明確にして話し合いを行う。
8	ミャンマーの経済発展の課題の解決法を考えよう	・ミャンマーの抱える課題 インフラ整備の遅れ，高等教育の遅れ，地域格差，就職先の不足など ・ミャンマー発展のために必要なこと 環境問題にも目を向けた企業進出，豊かな自然や天然資源の活用，ミャンマーの良さの維持	**手立て⑤** 課題解決案を考える際，同じ視点をもつ子でグループを組んで活動を行うようにする。
9	ミャンマーの発展にかかわりできることを考えよう	・ミャンマーの課題解決案 ・「Ｊ＆K」の社員の方と松井氏によるアドバイス	**手立て④** ＳＫＹＰＥ で日本企業「Ｊ＆K」の方に自分たちが考えたミャンマーの課題解決案について評価をもらう。

６　抽出生徒

抽出生徒として，生徒Ａの変容を追いながら，仮説に対する手立ての有効性を検証していくことにする。生徒Ａの実態については，以下の通りである。

生徒Ａについて…社会科の学習に対しては，苦手意識をもっている。外国は，「知らない国だから」と敬遠している。しかし，自分の周りのことや身近なことには，興味を示し反応もよくなる。考え方は，自分中心的なところもある。自分の思いを言葉で表現すること，話し合い活動では意見を言うことが苦手である。

７　授業実践

（１）ミャンマー人に出会う子どもたち　（１時間目）

外務省が「ミャンマーの大学生の研修を岡崎で」という計画を立て，竜南中を含めて４つの小中学校訪問が行われることになった。東南アジアについて生徒たちは，遠い国・自分とほとんど関係のない国と捉えている。この機会を生かし，ミャンマーに興味をもち，身近に感じられるように授業を組んでいきたいと思い，大学生が我クラスに訪れることを切望した結果，１時間の授業と給食を共にする機会を得ることができた。

授業では，ミャンマークイズ（ミャンマーの国旗・場所・人口など日本と比較したクイズ）に取り組んだ後，あらかじめ考えておいたミャンマーについて聞いてみたいことを質問した。そこでは，子どもは日本にもミャンマーにもあるお店，将来の夢，日本に来た印象や日本のことをどう思っているかなどを聞いていた。資料１はこの時の生徒Ａの生活の記録である。

【資料１】　生徒Ａ「生活の記録」

（前日）明日，ミャンマーの方たちが来ます。ミャンマーの方達に一生懸命覚えた言葉「はじめまして」「ありがとう」を心から気持ちをこめて伝えられるようにしたいです。①楽しみです。

（当日）今日，ミャンマーの人が２人来てくれました。一番すごいなと思ったことは，始めの１５分くらいは通訳さんがいなくて言葉が通じなくても，だいたいの仕草で伝わって分かったことです。最後に２人の名刺をもらい，②バスが消えるまでお見送りをしたので，日本人の人達は礼儀正しいと思ってくれたと思います。日本は，ミャンマー人からして平和で衛生的な国と言われたので，③日本に生まれてよかったなと思います。

下線部①から，ミャンマーの大学生の来訪を楽しみにして興味をもっていたことがわかる。下線部②からはミャンマー人に褒められて自分たちの国に対して誇りをもった様子は伝わるが，ミャンマーの国に対しての興味や関心が高まったとは言えない状態であった。また，下線部③のように，日本人としての自分のよさを感じていただけであった。

（２）ミャンマーに興味をもちはじめる子どもたち（２時間目）

ミャンマーの大学生に出会った後の感想に，「ミャンマーは発展している」と「発展していない」という両方の意見があった。そこで第２時では，授業の始めにミャンマーの大学生に会って感じた事を聞いてみた。

【資料２】　第２時　授業記録より	
Ｃ１	夏休みが３月～５月までの３か月間。理由は，気候が暑すぎるから。
Ｃ２	日本は，先進国で平和な国。日本でよかったと思った。
Ｔ１	日本のこと褒めていたね。先進国で平和な国だと。
Ｃ３	スマホ持っていた。
Ｃ４	**スマホが持てるくらい経済が発展しているんだなと思いました。**
Ｔ２	同じこと思ったひといる？（５人ほど手を挙げる）
Ｃ５	マックがない。
Ｔ３	マクドナルドがないって言っていたね。
Ｃ６	マックがないのは，宗教的に豚肉とかが食べられないからなのかな。これからマックができそうと言っていたので。**これから発展していくのだと思う。**
Ｃ７	**少し日本よりも産業とかが遅れているけれど**，人柄がよくみんな優しくて日本と少しにているところがあるとても良い国だと思った。

【資料３】

資料２のＣ４のようにスマートフォンを持っていた様子を見て，経済発展していると考える子がいた。また，Ｃ６・７のように，日本ほどは経済発展していないが大きく遅れている国ではないという捉えの子がクラスのほとんどであった。（子どもたちは，マクドナルドなどの外国産業がない事は，経済発展していないと思っている。）

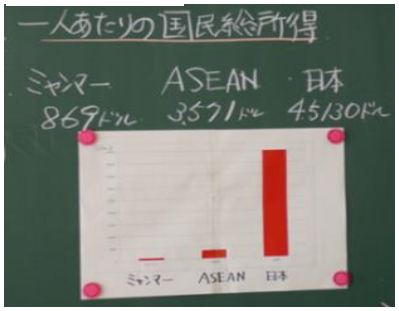
そこで，元小学校校長でミャンマーの支援をしてみえる松井幸彦氏から提供してもらったミャンマーの学校の様子の写真（資料３）を提示した。そして，青空教室の学校であることや地べたに座って学習していることが分かると，「えー」「うそー」と驚きの声があがった。自分たちのイメージとは大きく違い，貧しい暮らしをしていると感じたようである。また，資料４にあるように生徒Ａをはじめ多くの子が，ミャンマーはどんな国なのか調べてみたいと考えるようになった。

【資料４】　２時間目の授業感想

・経済が発展していると思っていたのに，あれ!?ってことが多くて意外でびっくりしました。
・はじめミャンマーはふつうの暮らしなのかなと思ったけど，外（地面）で勉強をしていたり，はだしでいたり思った以上に質素だったので，驚いた。**もっと詳しく調べてみたい。**（生徒Ａ）
・写真に先生が写っていなかった。学校に先生が本当にいないのかが気になった。年齢が違う子とも同じことを勉強するのかなと思った。
・留学生の子は，日本みたいな感じだけど，ミャンマーの田舎では，はだしで簡単な建物で勉強していた。貧しい都市があると言っていたので，都市の学校はどんな様子か見てみたいと思いました。
・これからの私は，個人的に教育のことを調べたいと思いました。理由は，写真をみるかぎりいろんな授業の受け方があってびっくりしたからです。この教育はこれから変わっていくのか，**写真を撮った，松井先生にも話が聞いてみたいです。**

ミャンマーが実際は貧しい国かもしれないと感じたところで，資料５を提示し，一人あたりの国民総所得をミャンマー・日本・ＡＳＥＡＮで比較した。グラフを提示すると，日本との差に驚きを示した。さらに，ドル表示では，分かりにくいので日本円に直して，比較をした。そこから，ＡＳＥＡＮ諸国と比較しても，ミャンマーのＧＤＰが少ないことに子どもは目を向け始めた。そして，「これから先のミャンマーはどうなっていくのか。」「同じ東南アジアのＡＳＥＡＮ諸国とは同じレベルになっていくのだろうか」と考え出したので，「ミャンマーはＡＳＥＡＮ諸国に追いつくことができるのか」という単元の課題を設定した。

【資料５】



（３）ゲストティーチャーに出会いミャンマーの人々の暮らしについて調べたいと思う子どもたち（３時間目）

第２時の授業感想に「松井先生に話が聞いてみたいです。」と書かれていた。また，子どもたちはミャンマーについて情報ももっていない状態であったので，基礎的な知識を得て個人追究の視点をはっきりさせるために，松井氏をゲストティーチャーとしてお招きすることにした。

松井氏には，ミャンマーで見たり聞いたり感じたりしたことを話していただいた。松井氏がミャンマーの日本

人学校に勤めていた時，病気になった松井氏に毎日ミャンマー人が看病してくれたこと。ミャンマーは，貧しい国であり，学校がほとんどなく勉強がしたくてもできない子が多いこと，給食もないこと，さらに現在のミャンマーは軍事政権が終わりこれから外国と交流をもち発展していく国であること，ミャンマーの現在の経済の様子についても話していただいた。さらに生徒たちの疑問にも答えていただいた。

【資料６】　３時間目の授業の感想
・自分が思っていたよりも**貧しい暮らしをしていてびっくりした。**
・松井先生の話からミャンマーの人は，優しくて，温かい人柄と聞いて，**もっとミャンマーについて知りたいなと思いました。**
・松井先生からミャンマーのいろいろなことを聞いて，私たちのふだんの学校の生活は，当たり前ではないことを感じた。そして，ミ**ャンマーは裕福な国ではないことが分かり，私たちは幸せだと思いました。（生徒A）**
・貧富の差が激しいことが分かった。ビルマ時代からミャンマーに変わり，いろいろと変化があったことが分かった。**これから，ミャンマーはどうなっていくのか。**

ミャンマーに関する話を松井氏から聞いて，資料６の感想にあるように，裕福な国ではないということが分かり，驚きを感じていた。そして，「ミャンマーについて知りたい」「これからミャンマーはどうなっていくのか」と追究意欲が高まってきた。

（４）うまく調べることができず疑問が解決できない生徒たち（４・５時間目）

「ミャンマーは，ＡＳＥＡＮ諸国に追いつくことができるのだろうか」について個人追究をする前に，追究の視点を明確にすることにした。そこで，自分の調べてみたいことを聞いたところ，資料７に見られるように多くの疑問や調べたいことがあがった。そして，【教育・政治・暮らし・人口・食・経済・環境】の７つの視点から追究することになった。

視点	調べてみたいこと　　【資料７】
教育	先生は，いるのか。建物らしい学校はあるか。１週間どのくらい通っているか。１回の授業の長さ。部活あるか。小学校の数は。
政治	法律。お金の種類。政治のしくみ。
暮らし	家庭の様子。服装。土日の過ごし方。人気スポーツ。
人口	少子高齢化しているか。都市と農村の人口の差。
食	伝統的な食べ物。お祝い料理は。
経済	輸出入品目。海外に働きに出ている人はいるか。日本企業はどのくらいあるか。会社の数。
環境	森林破壊の問題は，あるか。どんな環境問題がおこっているか。どんな発電方法か。

まず，インターネットを利用して調べてみたが，資料が難しく読み取ることができなかったり，自分の調べたいことの情報を見つけたりすることができなかった。そこで，教師自作の資料をグループごとに配布して調べを進めた。自作の資料は，ミャンマーの経済発展についてまとめてある『図解ミャンマー早わかり』と日本国際協力センター（JICE）から入手した『交流のとびら（ミャンマー連邦共和国編）』をコピーしたものである。交流のとびらは，ＡＳＥＡＮ諸国のすべての編を資料として渡した。資料は，外国の直接投資額やＧＤＰの変化などが載っていて，タイや日本と比較しながら調べを進めることができた。生徒Aは，タイはＡＳＥＡＮに加入してから発展してきているので，新規加盟国のミャンマーも，これから発展していくと考え，ＡＳＥＡＮ諸国に追いつくという意見をもっていた。

経済面については，詳しく調べることができたが，それ以外の視点のことは調べるのが難しく，資料やインターネットの情報だけでは，子どもたちは十分に追究を深めることができなかった。そこで，松井氏やミャンマー国内に進出している日本企業で働く人に聞き取り調査をすることにした。

【資料８】　生徒Aの調べ学習内容　　→タイと比較して調べて【経済面】
○タイ→日本とタイは，経済関係が特に深い。タイに対する外国直接投資額のうち，日本からの投資は６４％に相当して，圧倒的な規模である。タイにとって，日本は，最大の輸入先であり，タイ国内の生産活動に必要な部分などが大量に供給されている。

（５）学びを深め，自分の考えをもっていく子どもたち（６時間目）

松井氏からは，資料９の授業記録にあるように，暮らしや教育面など様々なことを聞きとることができた。松井氏の話から生徒たちは，インフラの整備ができておらず，停電がおきるということに驚いていた（資料９Ｃ４から松井４）。子どもの感想（資料１０）にもあるように，インフラの整備が進んでいるのか未整備なのかが問題

となり，インフラ整備を早急に進めることがミャンマー経済の発展には，必要であるという意見が多く出た。この時の生徒Ａの感想を読んでみると，ミャンマーにおける外国企業の進出の問題が大切だと考えていることが分かる。日本とミャンマーの問題にも目が向くようになってきた。

【資料９】　第６時　授業記録より

Ｃ１	日本には，殺人や強盗など凶悪な事件が多いですが，ミャンマーでは，日本と比べてどうですか？**【暮らし】**
松　井１	日本人学校に行っていた１～2 年の間には，殺人などはなかった。泥棒はいたが，日本と違って生活に必要なもの，ズボンとかスカートとかそういうものをとる泥棒。見張りを雇っている家には入らない。なぜなら，見張りをしている人がかわいそうだから。見張りをしているのに泥棒に入られたとなると，仕事をきちんとしていなかったことになるので。
Ｃ２	調べたら義務教育が小学校までと分かったのですが，卒業した後は就職する人と進学する人どちらが多いですか。**【教育】**
松２	卒業後に進学する人はほとんどいない。中学に進学する子はいるが，高校・大学と進む人はほとんどいない。なぜなら，就職先が変わらないから。就職率がいいわけでない。ヤンゴン大学，日本で言うと東大に進んでも，就職先がない。工場がない。日本でいうと例えばトヨタとかアイシンとかそういう工場もないし，会社もないので。進学してなるとしたら，病院とか学校の先生かな。その分農業に携わっている人はとても多いよ。米でいうと，ピンクとか黒色の米があるよ。
生徒	えーーー見てみたい。
Ｃ３	都市化が進んでいると知ったのですが，道路はコンクリートですか？都市部と農村では，違いがありますか。
Ｔ１	どう思う？
Ｃ４	僕は，都市部はコンクリートで，農村部はそうじゃないかなと思います。**【暮らし】**
松３	その通りで，都市ヤンゴンとかはコンクリートですね。ヤンゴンからネーピードー，マンダレーに続くところには，8 車線の道路ができ上がって走っています。
Ｃ５	インフラ整備が整っていないということを聞いたのですが，本当に整備されていませんか？**【暮らし】**
松４	3 年前からものすごくインフラの整備が進んでいます。それまでの 40 年間は，全く変わらなかったのに，この 3 年ですごく変わってきています。水道とか道路とか電気とか他の国からの支援で整備計画もたっています。キワタ。ティラワ，マンダレーなどは，どんどん整備されていく予定です。
Ｔ２	３年前と言うと，ちょうど軍事政権が終わって，民主化の政治に変わった時だね。
Ｃ６	出稼ぎは，どこの国に多く行っていますか？【経済】
松５	タイへ行くことがほとんどです。日本にも来ていますね。名古屋だとだいたい 50～60 人ぐらいいますよ。
生徒	えっ。そんなに多いの。
Ｃ７	電力不足と聞いたのですが，自然のものを使った**発電**とかありますか。【環境】
松６	電力不足は，正しいです。停電をします。空港が停電することもあります。10 分くらいですけども。石炭の火力発電が主流です。風力は，あんまりありません。水力は，川の流れが急じゃないとできないからミャンマーの川は，緩やかな流れが多くて自然にはできません。だからダムを造ろうという計画があったんです。
Ｃ８	日本からの企業の進出は多くなっていますか。【経済】
松７	最近は，急に伸びているよ。ティラワは，3 年前 30 社くらいだったのに，今では，100 社近く進出している。保険会社が多いかな。スーパーやイオンも進出しているよ。寿司屋とかもあるよ。

この授業のあと生活の記録にミャンマーに関する新聞記事の切り抜きを貼って，自分の考えを書いてきた子がいた。そして，資料１０下線部のように，外国企業のミャンマーへの進出のためには，日本人向けのクリニックが必要だと自分の意見を述べている。ミャンマーに対する，関心が高まり意欲的に学ぶ姿が見られた。

【資料 10】　生活の記録

おとついぐらいに中日新聞でこの記事がのっていた。見出しは，「ミャンマー邦人診療所」と。水色のマーカーのところからも分かるが，日本人が増えているため，日本人向けのクリニックをつくるらしい。オレンジ色のマーカーからもわかるが，こういった整備も外国企業を進出させるために必要になってきそうだ。

新しい事実がわかり，子どもたちはさらに多くの疑問を抱いた。そこで，日本人でミャンマーの現地の日本企業の進出のサポートをしている会社の方や松井氏に質問をメールやＦＡＸで送り，答えていただいた。

【資料 11】　６時間目の感想

・今のところ，インフラ不足なのかわからない。だから，経済発展でＡＳＥＡＮに追いつくかも分からない。でも，インフラが整備されているあるいは，今後支援してくれるのであればだんだんと追いついていくと思った。

・私は，始めミャンマーは，ＡＳＥＡＮ諸国の中でもすごく他の国に比べ遅れていると思っていました。本で調べたら，日本からの進出企業は，2008 年では，たった 2 社でした。タイは，日本と進出企業のこともあって，経済関係が特に深いということがわかったけど，ミャンマーはどうなのかな。なんでこんなに少ないんだろうとずっと疑問に思っていました。今日，松井先生に質問してみました。すると，今，ミャンマーは急激に伸びているとおっしゃっていました。2008 年は，まだミャンマーは鎖国みたいだった時代だからかなとも思いました。なので，今の私はミャンマーはＡＳＥＡＮ諸国に追いつくと思います

（６）ミャンマーの未来について話し合う子どもたち（７時間目）

個人追究をもとにして，「ミャンマーはＡＳＥＡＮ諸国に追いつくことができるのか」について話し合った。この話し合いでは，「追いつける」「追いつけない」の立場に分かれて意見を述べるようにした。

【資料 12】　第７時　話し合い活動授業記録

Ｃ１	ミャンマーの**発電設備**は，ベトナムの１割強しから追いつけない。
Ｃ２	ミャンマーは，多くの企業が進出しているが，物価が安い。みんなが買えば，すぐに追いつける。
Ｃ３	**Ｃ２に反対で**，物価が安いって言っても給料も安いから簡単には，言えない。
生徒Ａ	ミャンマーは，急激に発展しているからこのままお金を稼ぎ続ければ追いつける。
Ｔ１	なんで急激発展中ってわかったの。
生徒Ａ	軍事政権が終わって，ミャンマーへの**日本企業の進出**が３０社から１００社に変わった。
Ｔ２	なるほど。ここ２・３年で増えたんだね。だから，こちらにしたんだね。じゃあ，他に追いつけるにした人のこだわりは。
Ｃ４	**生徒Ａと同じ**で日本企業が２０１０年から２０１５年の間で 3 倍にふえているからこれからも発展し続けるのではないかと思う。
Ｃ５	日本企業向けのティラワ**経済特区**ができているので，発展していくと思うので追いつける。
Ｃ６	**反論で**，ミャンマーは，**ビジネスのやりやすさ**では１９０か国中，１８２番目と下から８番目で，新規に事業を始めにくさでは，最下位だから，進出するのは難しいと思います。だから追いつけないです。
Ｔ３	それ，だれが言っていたの。
Ｃ７	ミャンマーの日本企業の方が答えてくれた資料からです。
Ｃ８	ミャンマーは，経済発展しているっていうけど，マンダレーヤンゴンなどの都市だけで，郊外は**インフラの整備**が行われていない。これからってところなので，まだ急激にではないと思う。
Ｃ９	大都市がインフラ整備していなかったら郊外もしていかないから順番に発展していっているから追いつける。
Ｃ10	【中略】 大学生が日本の文化を広めていくのは，よいことだと思うけど，逆にミャンマー独自の文化が減っていくのはよくないことだと思う。 環境面とかはどう。
Ｔ４ C11 大勢 C12	**インフラは，ミャンマーの問題。環境は，世界中の問題。地球温暖化とか。インフラをよくするために，急激に電気を使うのは，世界から電気を使いすぎだと悪い評判があがるので，急激に電気を使いすぎるのは，あんまり無理にやたら電気を使うことは，できないので，えーと，ので，インフラ整備や高等人材不足のその他の問題の対応も難しいと思います。** （拍手） **この前，松井先生が自然が豊かって言ってたけど，インフラとかが整備されていくと，自然がなくなっちゃう可能性があるので，インフラをあんまり整備しすぎない方がよいと思う。**

話し合いの中では，生徒Ａはミャンマーが急激に発展しているという意見を述べた。また補足してＣ５も経済特区のことを取り上げ発展すると主張した。しかし，Ｃ６やＣ８のようにまだ心配なこともあるので，ＡＳＥＡＮ諸国には追いつけないと考える子どももいたがインフラ整備が進めば発展できるという考えが主流になっていった。話し合いの後半では，インフラ整備も大切だけど，それに伴う環境問題の重要性も話題になった。（C11，C12）最終的には，世界やミャンマーの環境から考えるとインフラ整備を進めることは難しいのではないかと考えていた。次の資料 13 は，その時の授業感想である。

【資料 13】　　第７時の授業感想

・始めは，追いつくでした。でも話し合いをして，ミャンマーはお金の問題だけでなく，インフラ問題，経済発展するにつれて森林破壊という問題も出てくるということが分かりました。それを聞いて，**経済発展はよいことばかりではないな**と初めて知りました。でも，急激に発展するのは良くないかもしれないけど，少しずつ問題と向き合いながら発展していくことは，大切だと思います。（生徒Ａ）

・今回の話し合いでは，多くの課題点がみつかりました。〇〇さんの意見にあったように，都市と農村の差が大きいので，この差を少しでも縮めることができれば，追いつくことができるなと，改めて思いました。**課題の解決案をもっと出していって**，経済発展を進めていけば，良いと思いました。でも経済発展を進めてしまうと自然（森林）が減少していってしまうかもしれないので，自然を大切にする気持ちをもちつつ，経済発展を少しずつしていけばいいと思います。

（７）ミャンマーの課題解決策を考える子どもたち（８時間目）

第８時には，ミャンマーが発展するためには，どうすればよいかをグループで話し合うことにした。この話し合いでは，資料 15 のような意見が出た。これらの意見をミャンマーの「Ｊ＆Ｋ」という日本企業で働いている方にＳＫＥＰＥを使って伝えた。「Ｊ＆Ｋ」の方は，電力不足を補ってインフラを整備することが大切であり，子どもたちの意見を参考にしてみたいと話された。また，ミャンマー経済が発展していってほしいが，みんなと同じようにミャンマーの人の幸せを一番に考えているとも語られた。

【資料 14】SKYPE で提案する子ども

資料 16 は，授業の後の子どもたちの感想である。この感想から，ミャン

マーの発展には，「外国の力を借りること」「日本との友好を深めること」「教育を充実させること」等が大切だと考えていたことがわかる。

【資料１５】　　子どもの考えた解決案
電力不足を補うためにさとうきびを使って，バイオエタノール発電を行う。
高等人材不足を補うために教育に力を入れる。高校・大学を増やす。学校に行けないこどもたちのために家庭教師のような方法で勉強を教える。
ごみ収集がうまくいっておらず，空き地に捨てている。環境保護法など法律をきちんと定める。国民の意識を高める。ごみ捨て場の工夫やごみ収集の回数を増やす。
ミャンマーで豊富な鉱産資源（ヒスイレイアース）を輸出してそれでためたお金で発電設備を強化する。

【資料 16】　　第９時の授業感想

・まだまだミャンマーは，いろいろな技術がなく，ASEAN 諸国に追いつかないかなと思いました。ミャンマーに今，大切だと思うことは，**自分たちの国で問題を解決するのではなく，他の国に少しずつ助けをもらった方がいいと**思います。【生徒 A】

・日本は，ただミャンマーと貿易をするだけでなく，友好も深めることが大切だと思った。

・ペンキンさんもミャンマーが発展していくためには，全員が十分な教育を受けられるといいと言っていました。だからやっぱり**教育が大切**だと思いました。

・経済発展させるためには，**教育面の充実が大切**だと思いました。そこを改善を行っているのが松井先生だなと思いました。

８　研究の成果と課題

仮説Ⅰ　課題を自分の問題として捉えることができるようにすることで，子どもの問題意識を喚起させ，切実感をもちながら，意欲的に追究活動を行うことができたか。

手立て①→ミャンマーの大学生に出会うことで，ミャンマーに関心をもち追究意欲を喚起させることができた。

手立て②→授業感想などから子どもの意識を把握し「ミャンマーはＡＳＥＡＮ諸国に追いつくことができるのか」という単元をつらぬく課題を設定し，追究を進めていくことで，子どもの認識を深めることができた。

仮説Ⅱ　追究活動の場において，様々な見方・考え方に触れることで，多面的に事象を捉え，持続可能な社会の担い手に求められる資質を育てることができたか。

手立て③→個々の問題意識を大切にして個人追究を行うことで，意欲的に追究活動を行うことができた。

手立て④→ゲストティーチャーの松井氏に何度も聞き取りを行った結果，子どもたちの個人追究の視点を広げたり，ミャンマーに対する認識を深めたりすることができた。

仮説Ⅲ　同じ視点を有する生徒同士での追究活動や話し合い活動を行うことで，自分の考えに根拠と自信をもって学級全体の話し合いに参加し，事象に対する認識を深めることができたか。

手立て⑤→個人追究で分かったことを基に，同じような視点で追究したグループを組んで話し合い活動を行うことで，個々の考えを深めることができた。

手立て⑥→単元の学習課題についての立場を明確にして話し合いを行った。その際，自分の立場を決定するために根拠となる資料などを積極的に収集しようとする姿が見られた。また，自分と違う立ち合の意見に耳を傾け，自分の考えを再考することができた。

終わりに

２年生になったある日の生徒Ａの生活の記録に「今日，スーパーに行ったら，レジの所にミャンマーに学校を」というような募金ボックスがありました。なんでお財布を持っていなかったんだと自分を恨んだけど，６月だったか９月だったかまで募金をしていると書いてあったので来週こそお財布を持っていこうと思いました。」と記されていた。また，ミャンマーに図書館を建てたいと思っているという松井先生の夢を聞いて，将来協力をしたいという思いをもつようになってきた。

この学習に取り組むまでは，遠い存在であったミャンマーを，子どもたちは身近に感じるようになってきている。そして，将来ミャンマーに貢献ができたらいいという思いをもつようにもなった。自分の生活とは全く関わりのなかった外国との繋がりを考えられるようになってきたことは，本実践の大きな成果だと考えている。